



ご挨拶

本日は“*A-Winds*51” 2017年 春の演奏会にお越し下さり、誠に有難うございます。

新しい文化の風が香り立つ“いかるがホール”で皆様方とこうしてお逢いすることができましたことに、*A-Winds*一同、心より感謝申し上げます。

1999年10月“アンサンブル”という少人数のスタイルの延長上に位置付け“ウインドオーケストラ”と称し、大人数編成にて遷都1,300年の歴史を誇る奈良の都に発足しました。同年の秋には、初の舞台“デビュー演奏会”をこの「いかるがホール大ホール」にて開催。以後四季折々に開催する*A-Winds*の定期演奏会も、51回目を迎えることができました。これもひとえに我々*A-Winds*の活動、そして、共に音楽をこよなく愛して下さった皆様方の御指導、御支援の賜物と心より御礼申し上げます。

本日は、3人の団員指揮者による演奏会。それぞれの想いをタクトに乗せて、春の季節に相応しい彩り鮮やかな演奏を披露致します。

うらはらに 響きの替わる 春爛漫

*A-Winds*奈良アマチュアウインドオーケストラ団長 魚谷 昌克

本日はお忙しい中、“*A-Winds*51” 2017年 春の演奏会にお越しいただきまして誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

さて、今回の演奏会では「演奏会で聴いてみたい吹奏楽曲」がテーマになっています。普段、演奏をする側の私たちですが、「もし、演奏を聴く側に回ったとしたらどんな曲が聴きたいか?」という、当たり前のように、あまり考えたことがないかもしれないことをテーマに選曲しました。吹奏楽を始めたばかりの頃に演奏した懐かしい曲、ずっと演奏してみたいと願っていた憧れの曲、大好きだから聴くのも演奏するのもやりたい曲等々、思い入れの深い曲を詰め込みましたので、演奏をさせていただくのがとても楽しみです。

本日の演奏会で「吹奏楽っていいなあ」「今日は来てよかった」と皆様少しでも思っただけでしたら幸いです。

末筆にはなりますが、この演奏会開催にあたり御支援・ご後援賜りました各関係者の方々に実行委員を代表いたしまして深く御礼申し上げます。

“*A-Winds*51” 2017年 春の演奏会 実行委員長 大塚 由起

“*A-Winds*52” 2017年 夏の演奏会のご案内

2017年6月18日(日) 14:00開演 やまと郡山城ホール 大ホール

“*A-Winds*52” 2017年夏の演奏会では、「アジアンテイストな吹奏楽曲」をテーマにお送りいたします。

高 昌帥氏作曲の“*A-Winds*50” 記念委嘱作品「Chirche(チルチュ) for Wind Orchestra」など、アジアのどこかに由来する吹奏楽オリジナル曲を集めてみました。

*A-Winds*での音楽の旅をお楽しみ下さい。

“*A-Winds*52” 2017年 夏の演奏会 実行委員長 八木 真木



*A-Winds*奈良アマチュアウインドオーケストラ

Piccolo 佐藤 由加里	Alto Saxophone 島田 博一 三宅 利幸	Tuba 杉浦 小道 小野村 謙♪
Flute 佐藤 司☆ 魚谷 陽子 小谷 愛奈 大塚 由起☆	Tenor Saxophone 初岡 和樹	Contra bass 佐藤 良一
Oboe 桶谷 牧子☆ 松井 志穂☆	Baritone Saxophone 八木 理☆	Percussion 久保 寛美 松嶋 春香 梶本 雅子 小野 聖子 森田 晶 早川 健太郎(休団) 浦野 佳美 川本 理恵♪ 寺西 剛♪
♭ Clarinet 森 望	Horn 久野 耕三 大田 雅美 佐伯 直人 富川 陽太 西島 華奈子	Piano 八木 真木
♭ Clarinet 竹村 明恵 森本 幸恵 近藤 晴美 山崎 麻里子 米田 彩乃 山上 紗季(休団) 大西 珠美♪	Trumpet 魚谷 昌克 表 恭子 竹腰 綾香 谷田 弥生 鎌田 麻友 山本 洋介 大西 伸幸	Stage Manager 藤村 晃世♪
Alto Clarinet 大西 晴己	Trombone 小泉 文浩 田中 由美 木下 真由美	Announcer 境 貴子♪
Bass Clarinet 菅野 真奈	Euphonium 尾登 勇介 池内 砂織	団員合計 47名 ♪ = エキストラ ☆ = AW51実行委員
Bassoon 上田 良子☆		

*A-Winds*メンバー募集

- 募集パート
- Oboe _____ 1名
※イングリッシュホルンもお持ちの方、まずはご相談ください!!
- ♭ Clarinet _____ 1名
- ♭ Clarinet _____ 4名
- Bass Clarinet _____ 1名
- Bassoon _____ 1名
- Horn _____ 1名
- Tuba _____ 2名
- Contra Bass _____ 1名
- Stage Manager _____ 1名

- *A-Winds*の活動趣旨(ウインドアンサンブル&オリジナル重視)に賛同頂ける方
- ご自分で楽器を準備できる方
- 18歳以上の方
- 全ての活動に賛同頂ける方
- 詳細はお問い合わせ下さい。

問い合わせ先は<e-mail>a-winds@amber.plala.or.jp



2017年3月19日(日) 13:30開場/14:00開演
いかるがホール 大ホール

主催 ● *A-Winds*奈良アマチュアウインドオーケストラ
後援 ● 奈良県・斑鳩町・斑鳩町教育委員会・
大和郡山市・大和郡山市教育委員会・奈良県吹奏楽連盟



第1部 指揮：佐藤 司

今、吹き渡る風
“NOW, the wind blows”

- 作曲：高 昌帥／Chang Su KOH
- 出版：未出版
- 演奏時間：約3分半

この作品は、プロ交響楽団奏者によるスペシャル吹奏楽団、なにわ《オーケストラ》ウィンズの2016年に開催された演奏会のための委嘱作品です。そのため、欧文タイトルの「NOW」の部分は「NANIWA orchestral WINDS」の頭文字となっています。

本作では、通常の編成とは別のトランペットパートが編成されています。冒頭部はそのトランペットによる輝かしいファンファーレで始まり、後半はピッコロトランペットに持ち替えられさらに輝きを増します。全体的にオルガンを思わせるような響きのあるサウンドになっています。

実は「風」の名前を表す日本語は、2,000以上あるそうです。今日の演奏ではどんな「風」が吹き渡るのでしょうか。

シーゲート序曲
SEAGATE OVERTURE

- 作曲：ジェイムズ・スウェアリンゲン／James Swearingen
- 出版：Barnhouse
- 演奏時間：約7分半

この作品は、オハイオ州トレドで開かれたオハイオ州音楽教育者協会の1988年の総会のために作曲されました。

トレドがエリー湖に面し、海へつながる港となっているため、この「シーゲート(海の門)」というタイトルがつけられました。

フルートのソロから愛らしくはじまり、速い主題へ入ります。ここでは7/8拍子の変拍子もあり、軽快に進む中、管楽器のメロディの切れ目にテンブルブロックやボンゴといった打楽器が効果的に使われています。中間部はゆっくりした美しいメロディーがつづき、再び速い主部に戻って終わります。

スウェアリンゲンの作品にはアマチュア学生の演奏を意識した親しみやすい楽曲も多く、吹奏楽を始めてから演奏会で最初に演奏したのが彼の曲という人も多いことでしょう。

吹奏楽の為の第一組曲 変ホ長調
FIRST SUITE IN Eb for Military Band

- 作曲：グスターヴ・ホルスト／Gustav Holst
- 出版：Boosey&Hawkes
- 演奏時間：約11分

1909年に作曲されたこの作品は、吹奏楽のためのオリジナル作品としては草分け的な存在といえます。当時、吹奏楽曲の編成はまだ定まっていなかった中、ほぼ現代の編成で書かれた最初の曲として位置付けられている名曲です。

全曲は『シャコンヌ』『インテルメッツォ』『マーチ』の3楽章で構成されています。各楽章の主題は第1楽章冒頭から派生したものであり、楽曲全体に統一感がもたらされています。

指揮者のフレデリック・フェネルが『もしバンド曲の本当の指揮者になりたいというならば、このスコアを徹底的に勉強して、可能な限りの角度で、とらえていってもらいたいと念願する。この曲と生活し、あらゆる方法をとおして身につけるべきであろう。』とまで述べたほど、音楽的な技術がふんだんに盛り込まれています。

楽章に分かれてはいるものの、作曲者のホルストは自筆の楽譜に「各楽章は同一のフレーズで構成されているため、この組曲は休みなしに通して演奏されることを望む」と記しています。今回はそのホルストの意向に沿い、全楽章を続けて演奏いたします。

第2部 指揮：富川陽太
ゴッドスピード!
GODSPEED!

- 作曲：スティーヴン・メリロ／Stephen Melillo
- 出版：Stromworks
- 演奏時間：5分55秒

この作品のタイトルである「GODSPEED!」とは「成功を祈る」という意味で、作曲者のスティーヴン・メリロは高校生の頃から手紙の終わりには必ずこの言葉を書き、現在でもその習慣は続いているそうです。

音楽から離れますが、2006年7月4日に行われた、スペースシャトルディスカバリー号が地球と国際宇宙ステーションを往復するミッションSTA-121で、ディスカバリー号がまさに地球から飛び立とうとしている際に、管制官が“So good luck and godspeed, Discovery.”とクルーらへコメントしています。これは2003年にコロンビア号が空中分解した事故によってアメリカが有人宇宙飛行から2年ほど退いたため、今回のディスカバリー号がその再開の旗手だ、ということ踏まえた発言です。“godspeed”には強い祈りの力が籠められています。

本作は1998年にマンシー中央高校シンフォニックバンドの委嘱で作曲されました。

単独で演奏されることが多いですが、組曲「名誉・勇気・誓約」の第3楽章とも位置付けられており、わきたつように速い場面と、ゆっくりとしたおおらかな場面で構成されています。

指揮者の総譜には演奏時間は5分55秒と指定があり、曲中の3分33秒の位置まで記され非常に細かい指示がちりばめられています。

変拍子が用いられた非常に華やかな曲で2部のオープニングを飾ります。

モンタニャールの詩 指揮：魚谷昌克
Poème Montagnard

- 作曲：ヤン・ヴァン・デル・ロースト／Jan Van der Roost
- 出版：de haske
- 演奏時間：約18分

この作品は、イタリアのヴァッレ・ダオスタ州アオスタの市民バンドの委嘱により、1996年に作曲されました。

曲名の「Montagnard」は特定の事象などを示す語ではなく、フランス語で「山岳地方」という意味であり、ヨーロッパの屋根といわれているモンブランのある地域を表しています。イタリア北西部に位置するアオスタは、アルプス越えの要衝として古くから栄え、初代ローマ皇帝アウグストゥスが街を開きました。

ヴァン・デル・ローストはアオスタの豊かな自然や文化、他民族の侵略を受けた歴史を題材に、中世にこの地域を治めた歴史上の人物であるカトリーヌ・ド・シャランへのオマージュとしてこの作品を作曲しました。

風の音を表現するウインドマシーンなど様々な打楽器を使用したモンブランを望むこの地の厳しい自然の描写で始まり、冒頭でトランペットが奏でる5つの音による音型が曲全体を支配しています。軍隊の行進のようなリズムや戦いの情景、リコーダー4重奏により中世の雰囲気を出し出すルネサンス風の舞曲、領民に慕われたカトリーヌ・ド・シャランを思わせる叙情的な旋律が次々に現れ、壮大なフィナーレを迎えます。

大編成の吹奏楽によるスケールの大きな作品ながら、わかりやすい構成や非常に描写的な楽想となっています。

募金のお礼とご報告

A-Winds では演奏会開催ごとに義援金を募っており、演奏会終了後に日本赤十字社に全額納めております。

前回の演奏会 *A-Winds 50* では11,660円の募金をお預かりし、内5,830円ずつを「東日本大震災義援金」と「熊本義援金」受付口座に納めております。

また、募金を開始した *A-Winds 38* から *A-Winds 50* までで総額105,164円の募金をお預かりし、各受付口座に納めております。

募金にご協力いただいた多くの方々に、団員一同厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。